

春風秋霜

8月号

平成29年8月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 教育長二期目に当たって

6月議会で承認していただき、これからの一期3年間、教育長を務めることになりました。信頼される教育を推進するために全力で努力しますので、教職員の皆様のご協力をお願いいたします。

これまでの4年間は、ごく限られた教員の信用失墜行為による信頼の揺らぎはあったものの、教職員の皆様の努力により学力・問題行動・不登校には一定の成果が見られ、新学習指導要領に向けた授業改善にも手ごたえを感じています。小・中学校の在り方については、有識者会議から提言書を頂き、今後の道筋や課題を明らかにすることができました。

しかし、残った課題もあります。これからの少子化の時代を見据え、夢育・地育の充実が求められます。子供たちの可能性を伸ばし、夢を育むとともに、島田市の地域資源を活用し、島田市に愛着をもつ子供の育成に力を注がなくてはなりません。

島田市は、地域の教育力が大変高く、地域による活動や支援は、子供たちの成長にとって欠かせないものになっています。そこで、これまで以上に学校と地域の連携を充実していきたいと考えています。

また、教職員の多忙化解消や教育施設のマネジメントも大きな課題になっています。教育環境適正化についても、検討委員会の審議の進捗に合わせ、教育委員会としての方針を定めたいと考えています。

教育長として現場主義を重視し、学校現場だけでなく、教育委員会各課の現場にもできるだけ足を運び、子供や市民の生の姿や声をしっかり受け止め、市民からの信頼を増すよう努めたいと思います。学校訪問や各種団体との意見交換会などは継続して実施していきますので、皆様方のご理解とご協力をお願いします。

2 島田空襲被爆者慰霊のつどいに参加して

島田市には、昭和20年7月26日に、原爆の模擬爆弾と言われる5t爆弾が一発投下され、死者47人、重軽傷者200人以上という大きな被害を受けています。7月26日の式典では、静岡空襲の目撃談も紹介され、戦争を知らない世代が、80%を越すとと言われる時代だからこそ、戦争の悲惨さを後世に引き継ぐことが大切だと痛感しました。

8月15日（火）には、おおるりで「島田市平和のつどい」が開催されます。また、8月15日から17日までの3日間は、展示ホールで「沖縄戦とひめゆり学徒」「島田空襲」などのパネル展示も行われます。各学校には、平和都市宣言のパネルも配布されています。このようなものを有効に活用し、子供たちが平和について考える機会を作っていただけたらと思います。

3 家庭教育講演会から（いじめ・不登校の予防と対策）

7月1日（土）に家庭教育講演会が開催されました。講師の水野達朗氏（家庭教育支援センター ペアレントキャンプ代表理事）は、文部科学省の家庭教育関係の委員を委嘱された経歴の持ち主です。

以前の不登校対応は、子供のエネルギーが蓄積するまで登校刺激をしないという考えが主流

でした。しかし、水野氏は、不登校による勉強の遅れや、ネット依存、自室への引きこもりなど、二次的な問題も無視できず、適切なかかわりの必要性を述べています。

第一は、家庭教育で社会性や共感力などを育てることです。学校教育においても、失敗をチャンスにし、指示や注意の乱発を避け、アクティブリスニングによる子供自身に考えさせることを大切にしないでなりません。また、「神経質な性格」を「細かいところまで気付く」と見方を変えるように、同じ行動でも発想の転換により、ポジティブな見方をすることも、子供たちの自己肯定感を高めるためには大切です。

病名のはっきりしない体調不良を理由に、五月雨的な欠席をする子供は、不登校の予備軍と言われます。不登校からの復帰は30%程度との報告もあり、不登校が引きこもりに発展することも多いので、各学校でも早め早めの対応をお願いします。



4 劇団四季を観劇して

7月19日(水)に劇団四季のこころの劇場「ガンバの大冒険」を鑑賞しました。市内全小学校の5年生が、午前・午後に分かれて観劇しましたが、子供たちは十分に楽しんでいたと思います。

島田市の公演は、今回で7回目になります。劇団四季のこころの劇場は、毎年、全国80ヶ所ほどで公演を行っていますが、会場の用意と子供たちの移動に要する経費はかかるものの、無料で劇団四季のミュージカルが鑑賞できることは幸せなことです。

劇団四季が子供たちに伝えたかった、「生命の大切さ・人を思いやる心・信じあう喜びなど」は、子供の心に届いたと思います。また、ダンスや発声の素晴らしさも味わうことができたと思います。このような素晴らしさを教師が価値付けることにより、子供の感動は大きくなり、これからの生活の糧になると思います。

肘かけ椅子

「夏の思い出」

小澤 弥栄子 図書館課長

今年も暑い夏がやってきた。夏になると思い出す苦い経験がある。

まだ子供が小さい頃の、ディズニーランド旅行を明日に控えた日だった。

朝、前日に購入したパンを食べようとしたが、クリームパンを冷蔵庫に入れるのを忘れていた。一応、半分に割って、色、匂いを確かめ、クリームを一口なめてみたが味に異常は感じられなかったので、そのまま食べた。ところが・・・である。やはり食あたりを起こしてしまった。

通常であれば胃酸で死滅する菌が、暑さのため飲料を飲みすぎたことにより胃液が薄くなり、死滅できずに増殖してしまったのではないか、とのことだった。

暑いときに冷たい飲み物は喉越しが良く、つつい飲みすぎてしまう。その結果がこれだ。当然、翌日のディズニーランド行きはキャンセルになり、子供からは大ブーイングで、今でも何かにつけて言われることになった。

熱中症予防のために水分補給は不可欠ではあるが、飲みすぎによるデメリットにも気がつけたい。

以来、マイボトルには夏でも温かいお茶を入れ、飲みすぎることがないように気を付けている。